

グローバル5.5倍バランスファンド(予想分配金提示型)

<愛称:ゴーゴー・バランス(予想分配金提示型)>

設定日: 2021年6月23日

償還日: 2029年12月21日

決算日: 原則、毎月21日

収益分配: 決算日毎

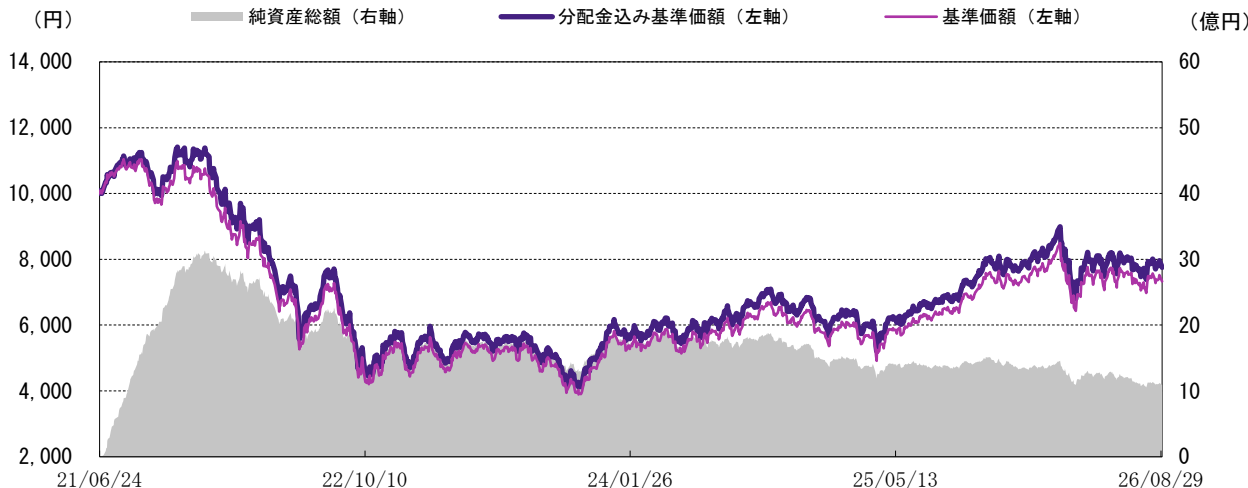
基準価額: 7,327円

純資産総額: 10.87億円

運用実績

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

<基準価額の推移グラフ>



※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

<基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
当ファンド	2.39%	-4.96%	-12.69%	12.10%	46.77%	-22.44%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

<分配金実績(税引前)>

設定来合計	直近12期計	25・9・22	25・10・21	25・11・21	25・12・22	26・1・21
600円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
26・2・24	26・3・23	26・4・21	26・5・21	26・6・22	26・7・21	26・8・21
0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

<通貨別構成比>

通貨名	比率
アメリカドル	37.4%
イギリスポンド	3.6%
オーストラリアドル	3.1%
シンガポールドル	1.0%
ユーロ	0.5%
日本円その他	54.5%

※比率は当ファンドの純資産総額比で、先物取引による建玉は含みません。

<資産構成比>

世界株式	99.9%
世界REIT	24.2%
先進国債券	398.5%
金	24.0%
合計	546.6%
現金その他	48.3%

※比率は当ファンドの純資産総額比です。

※先物取引にかかる証拠金は「現金その他」に含まれます。

※当ファンドはグローバル5.5倍バランス・マザーファンド受益証券を通じて、主な投資対象ごとに次の資産へ投資を行います。

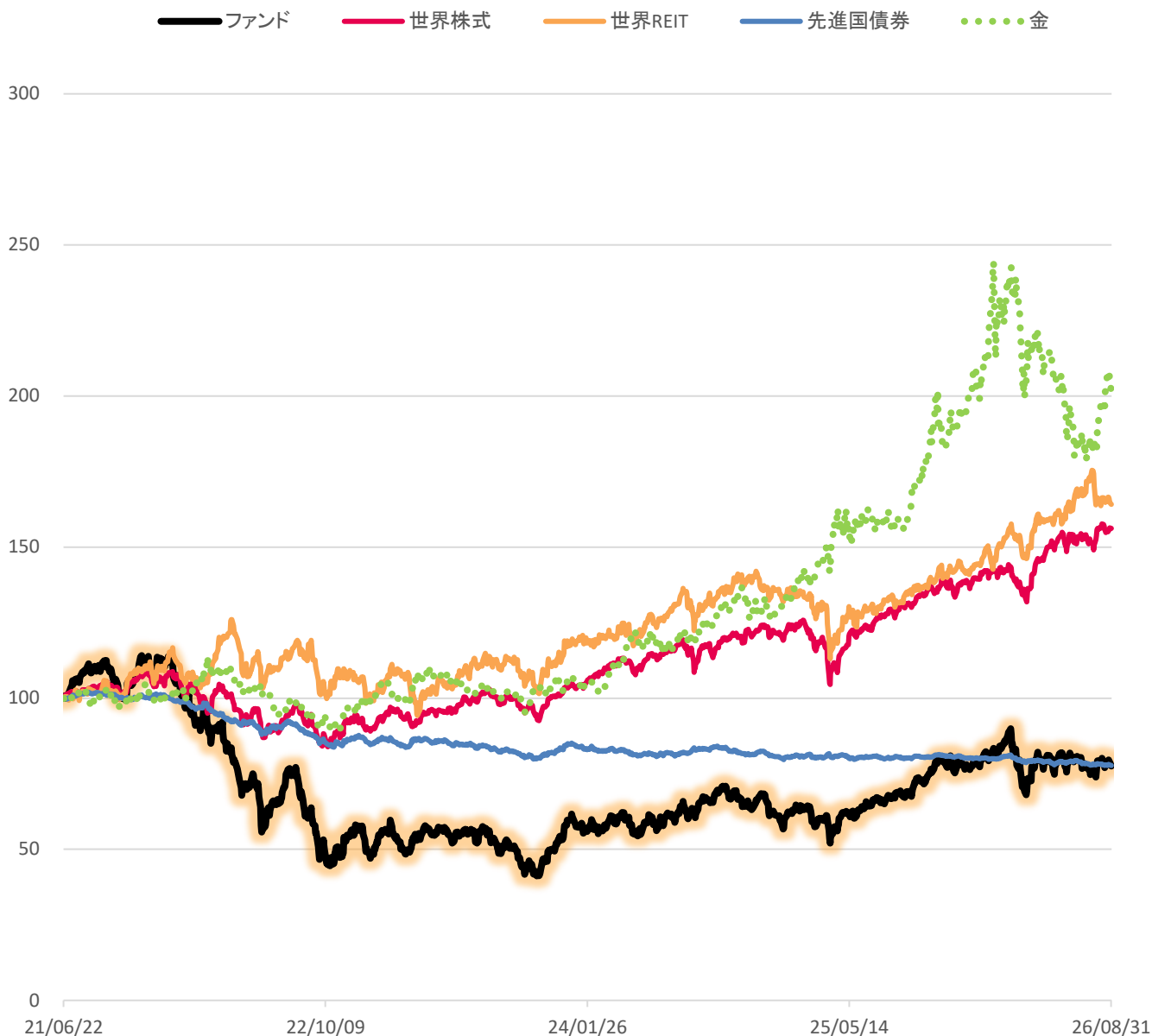
世界株式 : 世界の株価指数先物取引に係る権利など
世界REIT : 世界の不動産投資信託など
先進国債券 : 世界の国債先物取引に係る権利など
金 : 世界の金先物取引に係る権利など

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



＜ファンドと各資産の価格推移＞ (設定日の前営業日を100として指数化)



※「ファンド」は分配金込み基準価額です。

※各資産の内容は以下の通りです。各資産の推移は、あくまでも参考情報であり、当ファンドのベンチマークではありません。

世界株式 : 「MSCI ACWI USD Hedge から、1M SOFRを控除した指数」

(2023年7月3日までは、「MSCI ACWI USD Hedge から、1M USD LIBORを控除した指数」)

世界REIT : 「S&P先進国REITネット指数 円ベース」

先進国債券 : 「FTSE WGBI Developed Market JPY Hedge から、TORF 1Mを控除した指数」

(2021年11月末までは、「FTSE WGBI Developed Market JPY Hedge から、1M JPY LIBORを控除した指数」)

金 : 「Bloomberg Gold Sub Index」

※ MSCI ACWI USD Hedgeに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。

S&P先進国REITネット指数 円ベースに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はS&P社に帰属します。

FTSE WGBI Developed Market JPY Hedgeは、FTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関する全ての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

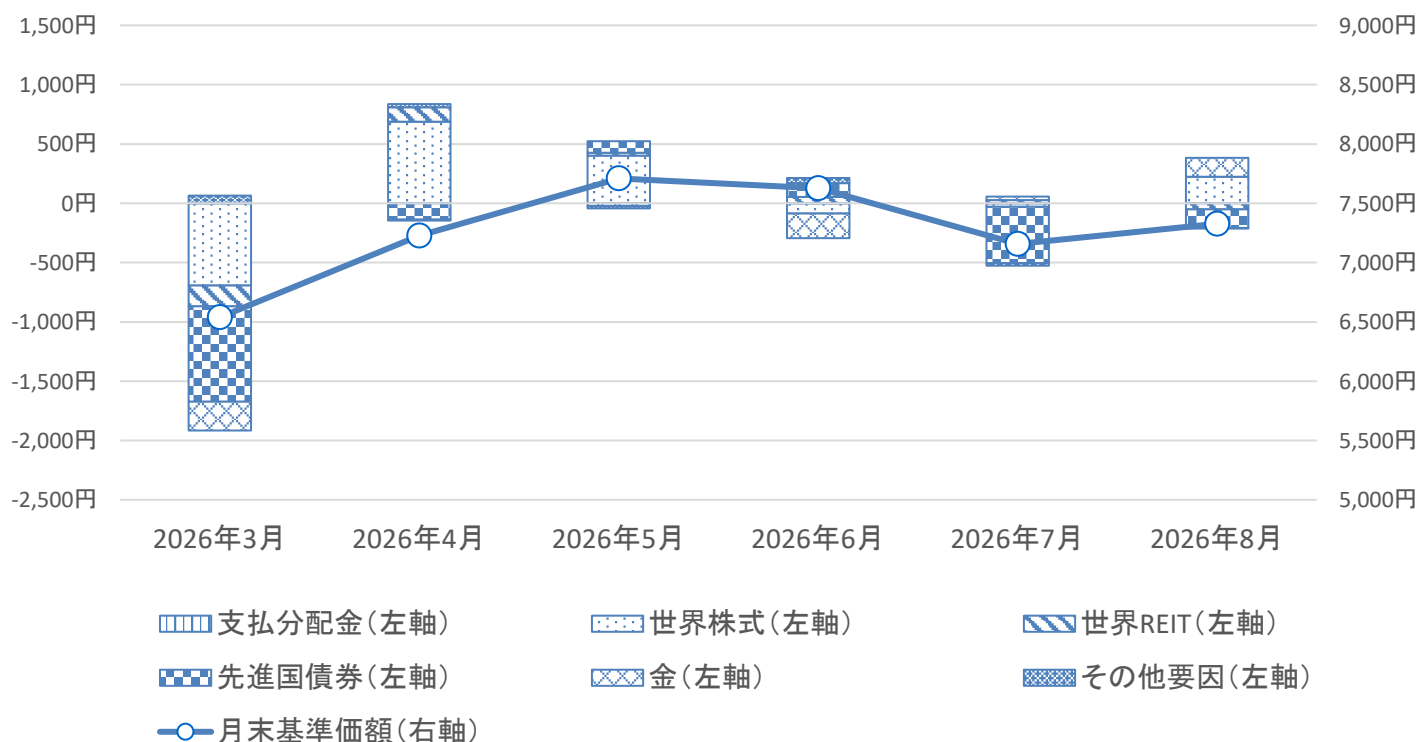
Bloomberg Gold Sub Indexに関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はBloomberg社に帰属します。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に向当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■基準価額騰落の要因分解

[直近6ヵ月/月次 および設定来] ※グラフは直近6ヵ月のみ



	2026年3月	2026年4月	2026年5月	2026年6月	2026年7月	2026年8月	設定来
前月末基準価額	8,392円	6,539円	7,227円	7,709円	7,626円	7,156円	10,000円
支払分配金	0円	0円	0円	0円	0円	0円	-600円
世界株式	-694円	687円	401円	-86円	-30円	223円	2,685円
世界REIT	-173円	121円	26円	54円	26円	-50円	158円
先進国債券	-804円	-138円	98円	115円	-474円	-158円	-6,974円
金	-245円	-9円	-26円	-210円	30円	161円	1,077円
其他要因	63円	27円	-17円	44円	-21円	-5円	981円
合計	-1,853円	688円	482円	-83円	-470円	171円	-2,073円
当月末基準価額	6,539円	7,227円	7,709円	7,626円	7,156円	7,327円	7,327円

	2026年3月	2026年4月	2026年5月	2026年6月	2026年7月	2026年8月
外貨建て資産の割合	44.3%	45.1%	47.0%	47.4%	46.1%	45.5%
外貨建て資産の 基準価額への影響	67円	29円	-15円	46円	-19円	-4円

※要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。
 ※設定来の「前月末基準価額」には設定日の基準価額を表示しています。
 ※其他要因には、為替変動や信託報酬等の諸要因を表示しています。

※外貨建て資産の割合は、為替変動の影響を受ける外貨建て資産の実質的な割合（為替ヘッジを行った場合は、為替ヘッジ換算ベース）を表示してあります。なお、数値は概算値です。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



世界株式

国	銘柄	比率
米国	米国株先物ミニ(S&P500)	69.1%
欧州	欧州株先物(ユーロ・ストックス50)	10.7%
新興国	新興国株先物ミニ(MSCI EM)	7.4%
日本	日本株式先物(TOPIX)	6.9%
英国	英国株先物(FT100)	5.8%
—	その他	0.0%
—	株式先物合計	99.9%

株式先物	99.9%
株式現物	0.0%

世界REIT

国	銘柄	比率
米国	VANGUARD REAL ES-ETF	15.6%
オーストラリア	VANGUARD AU PROP-ETF	3.0%
英国	ISHARES UK PROPE-ETF	2.4%
日本	上場インデックスJリート隔月	2.3%
シンガポール	AMV-ST AXJ REIT ETF-	1.0%
—	その他	0.0%
—	REIT合計	24.2%

先物	0.0%
現物	24.2%

先進国債券

<先物>

国	銘柄	比率
米国	米国国債先物2年	90.4%
米国	米国国債先物10年	81.3%
フランス	フランス国債先物10年	49.1%
日本	日本国債先物10年	45.6%
ドイツ	ドイツ国債先物10年	32.1%
米国	米国国債先物30年	29.2%
イタリア	イタリア国債先物10年	24.4%
英国	英国国債先物10年	18.9%
—	その他	0.0%
—	債券先物合計	371.0%

<現物>

国	銘柄	比率
日本	日本国債現物	27.4%
—	その他	0.0%
—	債券現物合計	27.4%

債券先物	371.0%
債券現物	27.4%

金

国	銘柄	比率
米国	金先物	24.0%
—	その他	0.0%
—	金先物合計	24.0%

金先物	24.0%
現物	0.0%

※比率は当ファンドの純資産総額比です。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



■運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

市場環境 ＜株式＞

8月の国内株式市場は、東証株価指数（TOPIX）が前月末比プラス3.82%、日経平均株価が同プラス3.03%となりました。中東情勢の先行き不透明感を背景に世界的な金利の先高観が意識されたことや、4－6月期国内総生産（GDP）速報値が市場予想を下回ったことなどが株価の下落要因となったものの、米国の利上げ観測が後退した場面で半導体関連株が買われたことや、米国とイランの対立長期化を背景に海上運賃の上昇が続くとの見方から海運株、海外景気の動向に左右されにくい内需関連株が堅調な動きとなったことなどから、国内株式市場は上昇しました。

東証33業種分類では、サービス業、海運業、非鉄金属などの23業種が上昇する一方、保険業、ガラス・土石製品、倉庫・運輸関連業などの10業種が下落しました。

米国株式市場は、前月末と比べて上昇しました。前半は、米国の雇用統計や生産者物価指数（PPI）の結果を受けて、米国の利上げ観測が後退し株価が上昇しました。後半は、米国の小売売上高速報値が市場予想を下回ったことや、公表された米国連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨を受けてインフレへの警戒感が強まったこと、米国連邦準備制度理事会（FRB）議長による米国経済シンポジウム（ジャクソンホール会議）での発言を受けて米国の長期金利が上昇したことなどから、株価は下落しました。

欧州株式市場は、前月末と比べて総じて上昇しました。中東情勢の先行き不透明感を背景に世界的な金利先高観が意識されたことなどが株価の重しとなったものの、米国の雇用統計の結果を受けて米国の利上げ観測が後退したことや、ユーロ圏およびドイツの製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値、ドイツのIFO企業景況感指数などが市場予想を上回り欧州景気の底堅さを示したこと、エネルギーや素材関連需要を背景に主要企業の業績が総じて堅調となったことなどから、株価は総じて上昇しました。

新興国株式市場は、前月末と比べて概して上昇しました。中東情勢の先行き不透明感を背景に世界的な金利先高観が意識されたことや、中国の製造業と非製造業の購買担当者景気指数（PMI）が市場予想を下回ったことなどが株価の重しとなったものの、中国財政部が経済情勢を踏まえ、追加の財政政策措置を適時実施する方針を示し景気支援への期待が同市場の支え材料となったほか、半導体やエネルギー需要を背景に世界的に関連株が買われたこと、インドの鉱工業生産が市場予想を上回ったことなどから、新興国株式市場は概して上昇しました。

為替市場で円は、新興国通貨に対してまちまちの動きとなりました。

市場環境 ＜不動産投信＞

8月のREIT市場は、前月末比で下落しました。都心部オフィスの空室率の低下や平均賃料の上昇が続いたことなどがREIT価格の支援材料となったものの、中東情勢の先行き不透明感を背景に世界的な金利の先高観が意識されたことや、日銀による早期の利上げ観測が高まったことなどがREIT価格の重しとなり、REIT市場は下落しました。

8月のS&P先進国REIT指数（除く日本）は、前月末と比べて下落しました。

米国REIT指数は、前月末と比べて下落しました。発表されたREIT各社の2026年4－6月期決算が概ね良好であったことや、米国株式市場が上昇したことなどがREIT価格の支援材料となったものの、ホルムズ海峡の開放を巡る不透明感などからインフレ懸念が強まり米国の長期金利が上昇したことや、米国連邦準備制度理事会（FRB）議長がインフレ高止まりへの警戒感を示し早期利上げ観測が強まったことなどがREIT価格の重しとなり、同指数は下落しました。

欧州REIT指数は、前月末と比べて下落しました。ユーロ圏およびドイツの製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値、ドイツのIFO企業景況感指数などが市場予想を上回り欧州景気の底堅さが示されたことなどがREIT価格の支援材料となったものの、2027年春に大統領選挙が予定されているフランスで政治や財政への懸念が意識されたこと、米国とイランの協議が難航し原油価格の先高観が広がるなかインフレ懸念が強まったこと、欧州諸国の長期金利が上昇したことなどがREIT価格の重しとなり、同指数は下落しました。

オーストラリアREIT指数は、前月末と比べて下落しました。ホルムズ海峡の開放を巡る不透明感などから原油価格が一時上昇しインフレ懸念が強まったことや、不動産投資家向け税制の変更やそれまでの政策金利の引き上げを背景に住宅ローンの申請件数が減少するなど住宅市場の減速が懸念されたこと、オーストラリアの消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回りオーストラリアの長期金利が上昇したことなどをを受けて、同指数は下落しました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めいただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



■運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

市場環境 ＜債券＞

10年国債利回りは、前月末比で上昇（債券価格は下落）しました。米国の雇用統計や生産者物価指数（PPI）の結果を受けて米国の利上げ観測が後退したことなどが利回りの低下（債券価格は上昇）要因となったものの、米国とイランの対立長期化への懸念を背景に原油価格が高止まりし、インフレ圧力が強まったことや、財務省が実施した新発10年債の入札などが低調な結果と受け止められ、需給の緩みが意識されたこと、米国政府高官による日銀総裁への利上げに期待感を示した発言などから、10年国債利回りは上昇しました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、前月末比で上昇しました。

その他国債の利回りは、全ての年限について前月末比で上昇しました。

米国の債券利回りは上昇（債券価格は下落）しました。米国の雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想に反して減少したことや、米国の生産者物価指数（PPI）が市場予想を下回りインフレ懸念が和らいだことなどが利回りの低下（債券価格は上昇）要因となったものの、ホルムズ海峡の開放を巡る不透明感などから原油価格が一時上昇しインフレ懸念が強まったことや、米国連邦準備制度理事会（FRB）当局者がインフレ抑制に向けた金融引き締め必要性を示したこと、FRB議長がインフレ高止まりへの警戒感を示し早期利上げ観測が強まったことなどから、利回りは上昇しました。

8月の欧州債券市場では、各国の10年債利回りは前月末比で総じて上昇（債券価格は下落）しました。米国とイランの緊張緩和への期待などが利回りの低下（債券価格は上昇）要因となったものの、ユーロ圏の消費者物価指数（CPI）の伸びが加速し欧州中央銀行（ECB）による追加利上げの可能性が意識されたことや、米国とイランの協議が難航し原油価格が一時上昇したこと、フランスでは2027年の大統領選挙を控え、予算審議の難航が見込まれており財政赤字の削減が進まないとの懸念が強まったことなどから、利回りは総じて上昇しました。

市場環境 ＜金＞

当月のコモディティ市況は、主要商品の価格が概して上昇しました。

原油価格は、ホルムズ海峡を巡る対立の行方が意識され上昇する局面があったものの、イランと米国による緊張緩和へ向けた協議や米国の原油在庫の増加などが重しとなり、ほぼ横ばいとなりました。一方、天然ガスの価格は、米国では供給が豊富だったものの、欧州の貯蔵量不足や液化天然ガス（LNG）の獲得競争、中東の供給リスクなどが意識され上昇しました。金の価格は、地政学的な不透明感やインフレ、アメリカドル安傾向などを背景に上昇しました。銀、プラチナ、パラジウムの価格も上昇しました。主要金属の価格は、需給の逼迫懸念などから銅が上昇し、アルミニウム、スズ、亜鉛も上昇しました。一方、ニッケルと鉄鉱石は下落しました。主要穀物の価格は、燃料や肥料コストの上昇、異常気象による供給懸念などから、小麦、大豆、トウモロコシが上昇しました。

運用概況

当ファンドは、日本を含む世界の株式、不動産投信、債券および金への投資において、先物取引を積極的に活用することで、純資産総額の5.5倍相当額の投資を行ないました。投資対象資産は、日本を含む世界の株式、不動産投信、債券および金の4資産とし、幅広く分散投資を行いました。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額の変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



ファンドの特色



世界の株式、REIT、債券および金の4資産への分散投資により、収益の獲得をめざします。

■マザーファンドを通じて、主として世界(日本を含む)の資産(株式、REIT、債券、金)に実質的に投資を行ないます。



先物取引を積極的に活用し、信託財産の純資産総額の5.5倍相当額の投資を行ないます。

■株式および金については、主として株価指数先物取引および金先物取引に係る権利などを通じて投資を行ないます。

■REITについては、主としてETF(上場投資信託証券)を通じて投資を行ないます。

■債券については、主として国債先物取引に係る権利および国債を通じて投資を行ないます。

■先物取引の買建総額と現物資産の組入総額との合計額が、信託財産の純資産総額の5.5倍相当額となるように投資を行ないます。



毎月決算を行ないます。

■毎月21日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とし、収益分配方針に基づいて収益分配を行ないます。

■各計算期末の前営業日の基準価額(支払済み分配金(1万口当たり、税引前)累計額は加算しません。)に応じて、原則として、以下の金額の収益分配を行なうことをめざします。

各計算期末の前営業日の基準価額	分配金額(1万口当たり、税引前)
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上12,000円未満	200円
12,000円以上13,000円未満	300円
13,000円以上14,000円未満	400円
14,000円以上	500円

- 分配金額は、毎決算時に、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。ただし、各計算期末の前営業日から当該計算期末までに基準価額が急激に変動した場合や、基準価額水準、市場動向などによっては、委託会社の判断により上記とは異なる分配金額となる場合や、分配を行なわない場合もあります。
- 基準価額があらかじめ決められた水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を行なうというものではありません。
- 分配金が支払われた場合、その金額相当分、基準価額は下落します。このため、基準価額に影響を与え、次期決算以降の分配金額は変動する場合があります。
- あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。

世界の株式、REIT、債券および金への分散投資にあたり、先物取引の活用によって純資産総額の5.5倍相当額の投資を行なう運用手法を「5.5倍バランス(ゴーゴー・バランス)」としています。

基準価額変動リスクの大きいファンドですので、ご投資の際には慎重にご判断ください。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2029年12月21日まで(2021年6月23日設定)
決算日	毎月21日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日が下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行いません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ・ニューヨーク商品取引所の休業日 ・シカゴ商品取引所の休業日 ・英国証券取引所の休業日 ・ロンドンの銀行休業日 ・ユーレックスにおけるすべてのデリバティブ取引に共通の休業日
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISAの対象ではありません。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し <u>3.3%(税抜3%)以内</u> ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。 《ご参考》 (金額指定で購入する場合) 購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額(お支払いいただく金額)となるよう購入口数を計算します。例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料(税込)をいただきますので、100万円全額が当ファンドの購入金額とはなりません。 ※上記の計算方法と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 (口数指定で購入する場合) 例えば、基準価額10,000円のときに、購入時手数料率3.3%(税込)で、100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。 $\text{購入金額} = (10,000\text{円} \div 1\text{万口}) \times 100\text{万口} = 100\text{万円}$ 、 $\text{購入時手数料} = \text{購入金額}(100\text{万円}) \times 3.3\%(\text{税込}) = 33,000\text{円}$ となり、購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万3,000円をお支払いいただくことになります。 ※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングが行えない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>	
運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し <u>年率1.089%(税抜0.99%)</u> ※この他に、投資対象とする上場投資信託証券には運用などに係る費用がかかりますが、投資する上場投資信託証券の銘柄は固定されていないため、事前に料率、上限額などを表示することができません。
その他の費用・手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用、運用において利用する指数の標準使用料などについては、 <u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u> が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。また、有価証券の貸付は現在行っておりませんので、それに関連する報酬はかかりません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕 www.amova-am.com 〔コールセンター〕 0120-25-1404 (午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項**○リスク情報**

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に債券、上場投資信託証券および株価指数先物取引・国債先物取引・金先物取引にかかる権利を実質的な投資対象としますので、債券、上場投資信託証券および株価指数先物取引・国債先物取引・金先物取引にかかる権利の価格の下落や、債券および不動産投信の発行体の財務状況や業績の悪化、不動産および金地金の市況の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

- ・ 公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。
- ・ 上場投資信託証券の価格は、連動目標とする資産価格および当該資産が関係する市況や市況の変化などの要因により変動します。上記事項に関する変動があった場合、ファンドに損失が生じるリスクがあります。不動産投信へ投資を行なう上場投資信託証券の価格については、不動産を取り巻く環境や規制、賃料水準、稼働率、不動産市況や長短の金利動向、マクロ経済の変化など様々な要因により価格が変動します。
- ・ 株価指数先物取引、国債先物取引および金先物取引にかかる権利の価格は、投資対象となる原資産の値動きや先物市場の需給および金利の動きなどの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、当該先物取引にかかる権利の値動きに予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

流動性リスク

- ・ 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券および先物取引にかかる権利などの取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク

- ・ 公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。
- ・ 上場投資信託証券について、金融商品取引所が定める一定の基準に該当した場合、上場が廃止される可能性があり、廃止される恐れや廃止となる場合も上場投資信託証券の価格は下がり、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあります。

為替変動リスク

- ・ 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・ 一部の資産において、為替ヘッジを行なうにあたっては、円の金利が為替ヘッジを行なう通貨の金利より低い場合、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。為替および金利の動向によっては、為替ヘッジに伴うヘッジコストが予想以上に発生する場合があります。

カントリー・リスク

- ・ 投資対象国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。

デリバティブリスク

- ・ 金融契約に基づくデリバティブとよばれる金融派生商品を用いることがあり、その価値は基礎となる原資産価値などに依存し、またそれらによって変動します。デリバティブの価値は、種類によっては、基礎となる原資産の価値以上に変動することがあります。

レバレッジリスク

- ・株価指数先物取引、国債先物取引および金先物取引などを積極的に用いてレバレッジ取引を行ないます。したがって、株式、債券および金地金市況の影響を大きく受けます。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様へ「グローバル5.5倍バランスファンド（予想分配金提示型）＜愛称：ゴーゴー・バランス（予想分配金提示型）＞」へのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○		
株式会社SBI証券 ※右の他に、以下にも加入 一般社団法人日本STO協会 一般社団法人日本暗号資産等取引業協会 日本商品先物取引協会	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○	○	
中銀証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第6号	○		○
株式会社中国銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第2号	○	○	
株式会社富山第一銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第7号	○		
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○	○	
北洋証券株式会社	金融商品取引業者	北海道財務局長（金商）第1号	○		
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○	○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

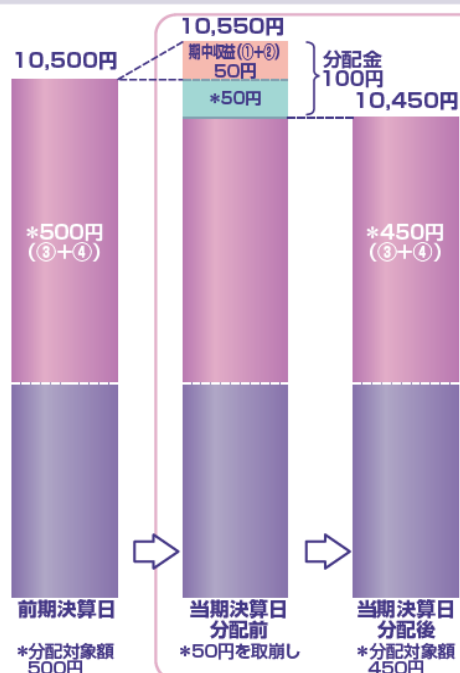
投資信託で分配金が支払われるイメージ



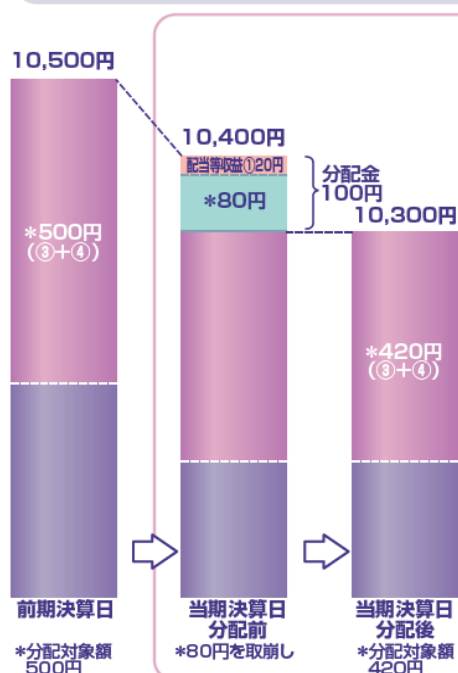
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



前期決算から基準価額が下落した場合

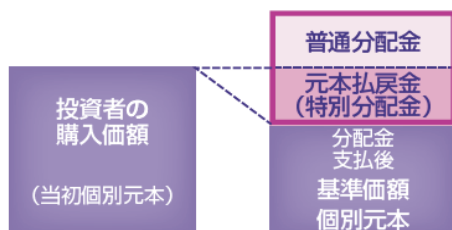


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

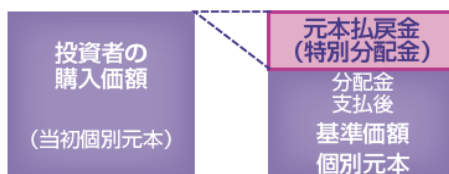
※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※ 元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

- ・ 普通分配金：個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。
- ・ 元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、（特別分配金）元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。